

カンキツ「蒲郡1号」の栽培特性と高品質果実生産技術

～カンキツ新品種「蒲郡1号」の高品質果実生産技術を開発～

栗田 恭伸（農業総合試験場園芸研究部常緑果樹研究室）

【平成25年2月15日】

【要約】

愛知県初のカンキツ新品種「蒲郡1号」は、果皮色が鮮やかな赤橙色で、減酸が早く、種子も無く、皮がむきやすい。収穫期はウンシュウミカン「宮川早生」より約2週間早い11月中旬である。今回、「蒲郡1号」の高品質果実生産を目的とした栽培試験に取り組んだところ、マルチ栽培によって慣行より高糖度の果実が生産でき、収穫後15日程度の貯蔵により色ムラが少ない果実の生産が可能となった。

1 はじめに

「蒲郡1号」は愛知県初のカンキツ育成品種である。ここでは樹体や果実の特性について紹介すると共に、商材としての付加価値を高めるための生産技術として、マルチ栽培による品質向上技術および貯蔵による果皮色向上技術を紹介する。

2 品種特性

樹姿は開張性で、枝の密度は中、樹の生育は「宮川早生」よりもやや旺盛で、トゲはまれに春枝で見られる（写真1）。果実の大きさは100g程度、形は扁球形、果皮色は鮮やかな赤橙色、はく皮性は良好で、種子は無く、果皮色以外はウンシュウミカンによく似ている（写真2、表1）。



写真1 蒲郡1号の樹姿

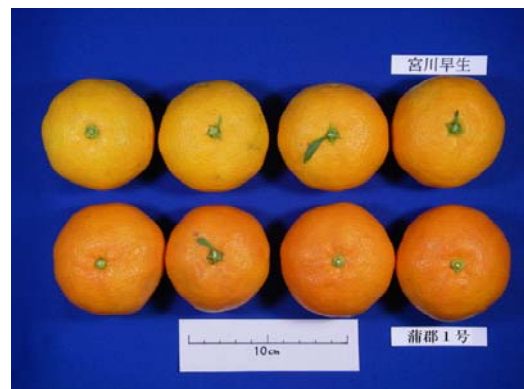


写真2 蒲郡1号の果実
(上：宮川早生、下：蒲郡1号)

表1 蒲郡1号と宮川早生の果実品質比較

品種名	着果状況	1果重	糖	クエン酸含量	着色歩合	果皮色
		(g)	(Brix)	(%)		(カラーチャート)
蒲郡1号	並	99.3	11.2	1.06	9.3	9.5
宮川早生	並	93.6	11.5	1.24	8.9	7.5

調査日 11月5日

注) 着色歩合：無0～完全着色10

注) 果皮色：カラーチャートの数値が大きいほど赤みが強い。

3 高品質果実生産技術について

(1) マルチ栽培による品質向上技術

ア 方法

マルチ資材は透湿性白色シート（タイベックソフトタイプ）を用い、8月上旬から収穫直前の11月下旬まで地表面を被覆した。9月上旬に1本あたり40Lのかん水を行った。

イ 結果

マルチを被覆したことで露地区に比べ糖度が高くなった。また、クエン酸含量も高くなった。果肉歩合、果形指数、着色歩合、果皮色に有意な差は見られなかった（表2）。

表2 マルチ栽培と露地区の果実品質比較

試験区	1果重 (g)	果肉歩合 (%)	果形指数	糖度 (Brix)	クエン酸 (%)	着色歩合	果皮色 (赤道部) (カラーチャート) (a値)
マルチ区	106.1	80.6	134	13.6	1.2	10	10.1
露地区	112.7	80.3	135	11.0	0.9	10	10.2
有意性	NS	NS	NS	**	**	NS	NS

調査日 11月22日

注) 着色歩合：無0～完全着色10

注) 果皮色：カラーチャート、a値の数値が大きいほど赤みが強い。

注) 有意性：1%水準で有意差あり。NSは有意差なし。

(2) 貯蔵による着色向上技術

「蒲郡1号」は果皮色が赤いため、色ムラがウンシュウミカンよりも目立ちやすい。これを改善するため、貯蔵による着色向上試験を行った。色は色差計によりa値を測定した。

ア 方法

収穫直後の果実をコンテナへ入れ、温度管理していない貯蔵庫内にて収穫直後から収穫35日後まで貯蔵を行った。色の測定は、収穫直後に果皮色が最も濃い部位と最も薄い部位を1か所ずつマーキングし、同じ部位を収穫35日後まで定期的に測定した。

イ 結果

収穫直後の果皮色の濃い部位と薄い部位のa値の差に比べ、収穫15日後ではa値の差が縮小した。また、収穫15日後から収穫35日後まではa値の変化は少なく、a値の差の縮小もわずかであった（図1）。

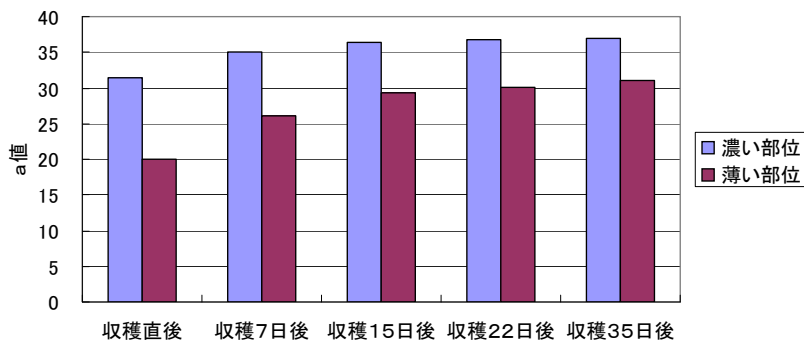


図1 貯蔵による蒲郡1号の果皮色（a値）の変化

(3) 考察

蒲郡1号は、ウンシュウミカン同様、マルチ栽培により糖度が上昇する。しかし、クエン酸含量も上昇することから、マルチ被覆期間中は糖酸含量を定期的に測定し、クエン酸含量が高い場合は、かん水による減酸処理を行う必要がある。また、収穫後の貯蔵によって果皮色が向上することがわかり、色ムラのある果実については効果があると考えられる。貯蔵期間は15日程度が適当である。